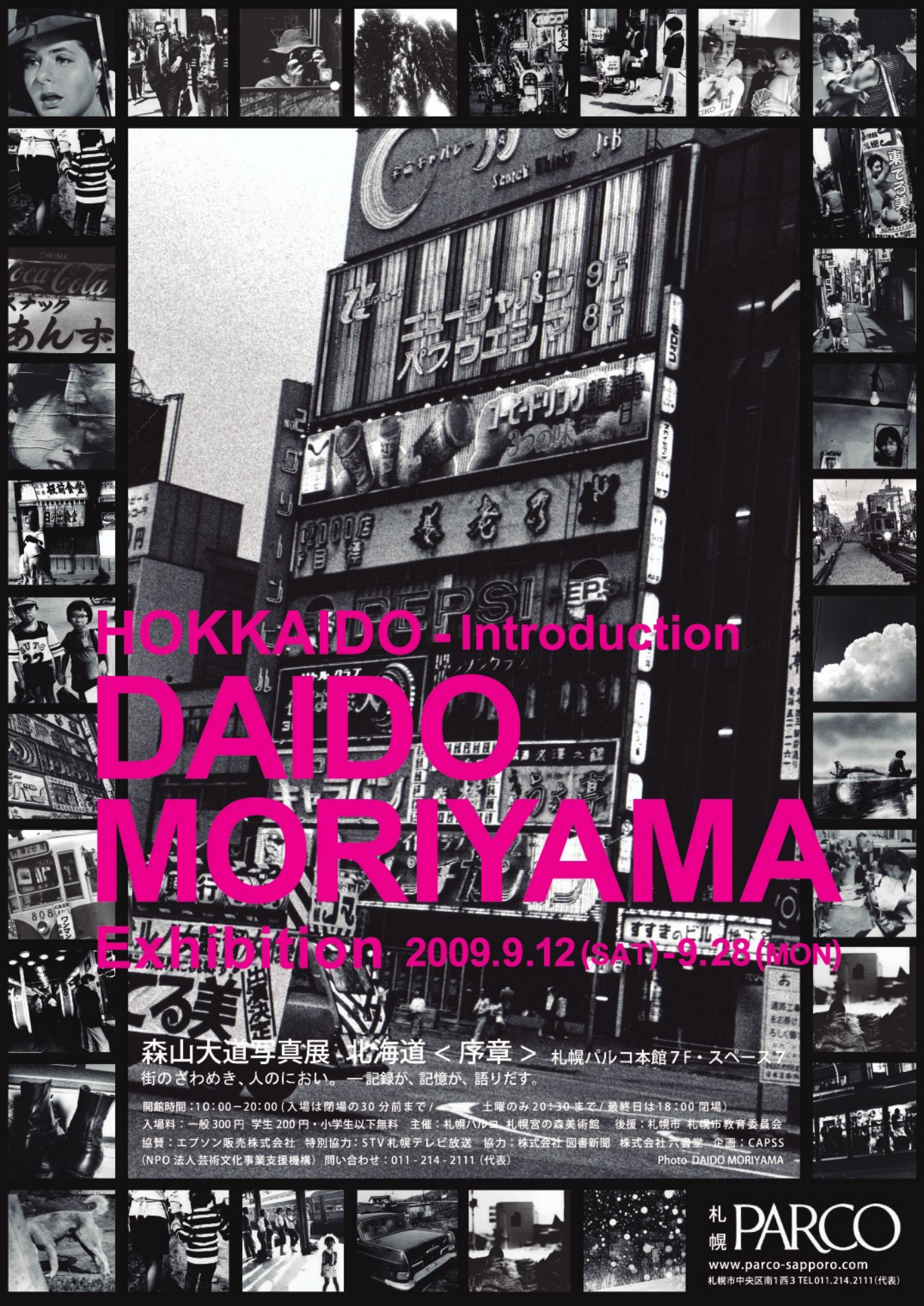




HOKKAIDO - Introduction
DAIDO MORIYAMA
Exhibition 2009.9.12 (SAT) - 9.28 (MON)

森山大道写真展 北海道 < 序章 > 札幌パルコ本館7F・スペース7
街のざわめき、人のにおい。—記録が、記憶が、語りだす。

開館時間：10:00-20:00 (入場は閉場の30分前まで / 土曜のみ20:30まで / 最終日は18:00閉場)
入場料：一般300円 学生200円・小学生以下無料 主催：札幌パルコ 札幌市の森美術館 後援：札幌市 札幌市教育委員会
協賛：エプソン販売株式会社 特別協力：STV札幌テレビ放送 協力：株式会社 図書新聞 株式会社 ハ音堂 企画：CAPSS
(NPO 法人芸術文化事業支援機構) 問い合わせ：011-214-2111 (代表) Photo DAIDO MORIYAMA

札幌 **PARCO**
www.parco-sapporo.com
札幌市中央区南1西3 TEL011.214.2111 (代表)

森山大道写真展 北海道 <序章>

街のざわめき、人のにおい。一記録が、記憶が、語りだす。

商業デザイナーを経て写真家・岩宮武二や細江英公のアシスタントを務めていた森山大道が、フリーの写真家としてデビューしたのは1963年のこと。カメラ雑誌などを中心に発表された粒子の粗いハイコントラストの表現は“アレ、ブレ、ボケ”と形容され、当時の日本の写真界に大きな衝撃を与える。最初期の代表作「にっぽん劇場写真帖」(68年)や、写真とは何かをラディカルなまでに追求した問題作「写真よさようなら」(72年)は、今も日本写真史に残る傑作写真集のひとつに数えられている。

その森山が「写真よさようなら」以降に味わった長いスランプ。彼は写真を撮る日々を取り戻すため、78年初夏の北海道に向かったのだった。

三ヶ月という期限つきでアパートを借りたばかりは、その間、雨降りでさえなければ(雨の日でも撮るべきだった)、とにかく自分の決めとして連日カメラを持って外出した。…中略…バスに乗り列車に乗って北海道のあちこちを写し歩いた。まれに一泊となることもあったが、ほぼ連夜、重い足を引きずってアパートに辿り着き、寒い部屋でひとり食パンをかじりウィスキーをなめ、また得の知らない憂鬱にとりつかれて長い夜を苛々と過ごしていた。

「犬の記憶 終章」より

森山大道写真展 北海道は、30年以上も前に撮影されながらこれまで封印されていた無数のネガから、入念なチェックを経て新たにプリントされた約2,000点を、地域や展示コンセプトにあわせ会場ごとに異なる構成で展覧するユニークな試みである。本年6月の宮の森を皮切りに夕張、美唄と巡り再び舞台を札幌へと移したこの札幌パルコ展では、とくに都市の雑踏やそこに蠢く人々がテーマになっている。まさに、ストリート・カメラマン森山大道の真骨頂ともいえるべき展示に、ぜひ期待して欲しい。

森山大道 DAIDO MORIYAMA

1938年大阪生まれ 写真家・岩宮武二、細江英公のアシスタントを経て64年フリーのカメラマンとなる。67年カメラ毎日に発表した一連の芸人シリーズが評価され第11回日本写真批評家協会賞新人賞を受賞。68年雑誌「プロヴォーク」(多木浩二、中平卓馬、高梨豊、岡田隆彦)に第2号より参加。写真集「にっぽん劇場写真帖」発表。69年アサヒカメラでの連載がスタート。72年写真集「写真よさようなら」、「狩人」を発表。自費出版の写真誌「記録」を刊行(73年6月のNo.5で中断)。74年ニューヨーク近代美術館で開催の「New Japanese Photography」展に出品。80年オーストリア、ドイツ、フランスなどを巡回する個展を開催。82年アサヒカメラで「犬の記憶」の連載開始。写真集「光と影」発表。同写真集により83年日本写真協会年度賞を受賞。85年イギリスとアメリカで開催された「BLACK SUN: THE EYES OF FOUR」展に出品。93年写真集「Daido hysteric No.4 1993」を発表。03年第44回毎日芸術賞受賞。カルティエ財団現代美術館(パリ)で「DAIDO MORIYAMA」展を開催。島根県立島根美術館、北海道立釧路芸術館、川崎市民ミュージアムで「光の狩人 森山大道 1965-2003」展を開催。04年ドイツ写真家協会賞受賞。05年京都造形芸術大学客員教授に就任。06年から北海道教育大学特任教授を務める。写真集「記録 No.6」を発表。07年スペイン他ヨーロッパ各地を巡回する「森山大道回顧展 1965-現在」展を開催。札幌宮の森美術館で「森山大道写真展『記録/記憶』」を開催。08年東京都写真美術館で「レトロスペクティブ 1965-2005+ ハワイ」展を開催。写真集「北海道」を発表。09年北海道各地を巡回する「森山大道写真展 北海道-序章-」がスタート。写真集「NORTHERN」発表

札幌パルコ本館 7F・スペース7

入場料: 一般 300円・学生 200円 小学生以下無料 展覧会情報、関連イベントの最新情報や詳細は札幌市中央区南1条西3丁目 札幌宮の森美術館、札幌パルコウェブサイトまで
TEL(011)214-2111(代表) 札幌宮の森美術館 <http://www.miyanomori-art.jp>
開館時間: 10:00-20:00 (入場は開館の30分前まで) 札幌パルコ <http://www.parco-sapporo.com>
土曜のみ 20:30まで / 最終日は 18:00開場

大竹伸朗 SHINRO OHTAKE

1955年、東京生まれ。74年、武蔵野美術大学油絵科に入学するが、すぐに休学。北海道別海町・ウルリー牧場で約1年間馬鹿農に従事。75年4月にかけて札幌、歌志内、砂川、滝川など道内各地を回りながら絵を描き写真撮影を行う。77年に蓮英、デビッド・ホックニーやラッセル・ミルズらと親交を結び、強い影響を受ける。この頃よりライフワークでもある「スクラップ・ブック」に着手。82年、国内初個展。85年にはロンドンのICAで個展を開催。ニューベインティングの旗手として脚光を浴びる。その活動は絵画という枠にとどまらず、写真や彫刻、版画、本、絵本、オブジェ、音といった分野に至る。質・量ともに圧倒的ともいえる作品群を生み出してきた姿に、時代の評価や注目が高まっている。06年「大竹伸朗 全量 1955-2006」展(東京都現代美術館)では、約2000点の作品が展示され、2ヶ月間の来場者数は55,000人にのぼった。04年雑誌「コトエ」創刊号の「宇和島」で森山大道とコラボ。07年森山大道の写真集「ハワイ」でポスターのアートワークを手がける。08年東京都写真美術館で森山大道と対談。

■ ワークショップ 森山大道グッズを作ろう

シルクスクリーンで森山大道
ブックカバー or エコバッグを作ってみよう!

森山大道 × 札幌 PARCO
コラボプロジェクト続々進行中!
詳しくは WEB サイトへ

札幌パルコ <http://www.parco-sapporo.com>

日時: 9月20日(日) 12:00-17:00
会場: 札幌 PARCO 本館スペース7
定員: 100名 参加費: 500円

展覧会関連イベント

トークライブ ※要事前申込

森山大道 × 大竹伸朗



(C) 中野正貴

日時: 9月26日(土) 18:00
会場: 札幌 PARCO 本館 7F・スペース7
参加費: 800円 (来場者プレゼントあり)
定員有 / 先着順の予約申し込み制
＜お申し込み方法＞
8月25日から札幌宮の森美術館ウェブサイト
お電話にて受付開始
<http://www.miyanomori-art.jp>
TEL(011)612-3562
※9月26日(土)はイベント開催の為、一般入場は
17:00までとさせていただきます。